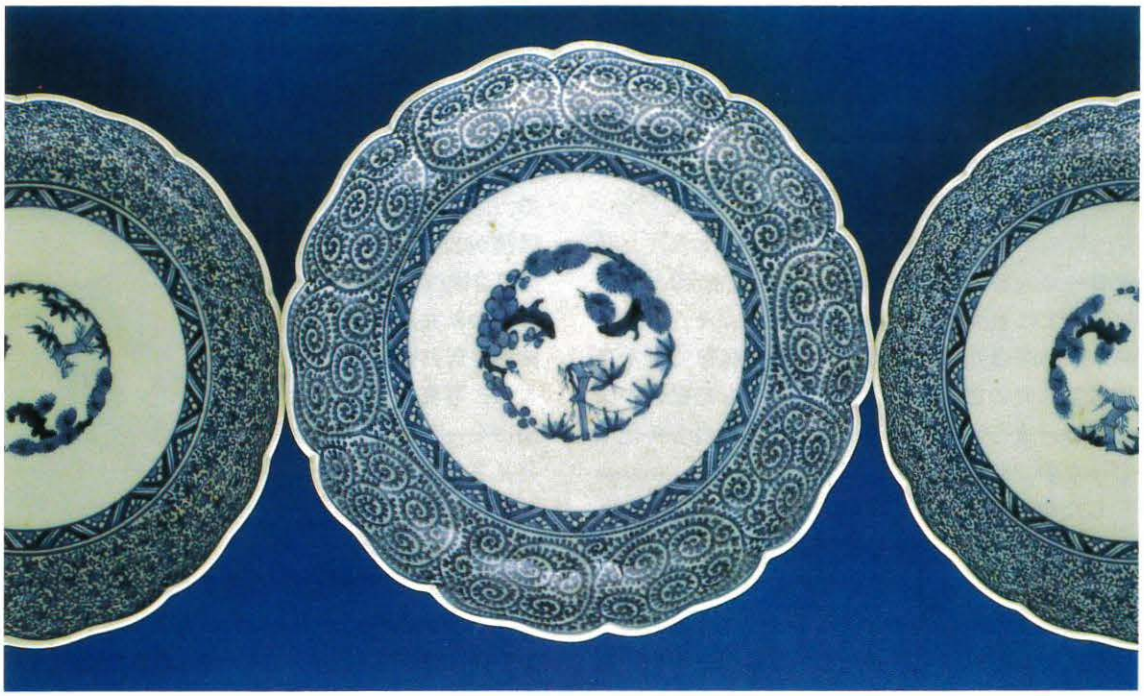
中野区立歴史民俗資料館だより

しいのき

第３号



《企画展：古伊万里―紺碧の美―　10月２日 ⇒ 11月17日　休館日＝月曜日・10月21日（日曜日）》

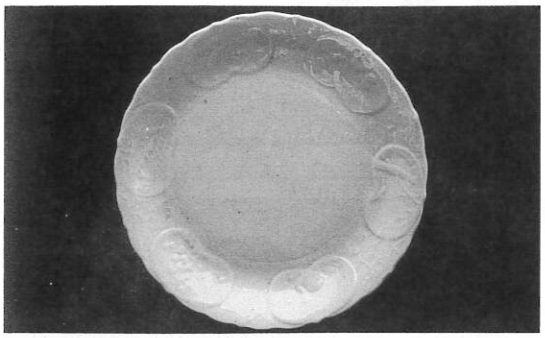
開館一周年を迎えて

名誉館長　三　隅　治　雄

昨年10月オープンしてからはや１年、夢の間の感もしますが、館員にとっては館の存在を世に問う期間として血と汗を流した思い出深い365日だったと思います。おかげさまで、中野の歴史と人々の暮らしをパノラマ化した常設展示も、要をえてたのしいと好評で、また館設立の功労者山﨑家に伝わった美術工芸品を中心とする特別展示室も、逸品揃いで人気を集めております。さらにその所蔵品を中心にしてのテニス展やお雛さま展は、とかく資料館を懐古趣味と敬遠しがちな青少年層をよぶのに効果的でしたし、また10月には山﨑家所蔵のものなど江戸期の名品を揃えた古伊万里展も昨今の江戸時代ブームに力を貸すことでしょう。史跡めぐり・古文書講座・歴史講座、さらに学校の児童・生徒の郷土学習等、区民の生涯学習に役立つべく、館員は日夜努めております。

文化財よもやま話

ヨーロッパにおける肥前磁器



▲ヨーロッパにも同じものがみられる
（肥前磁器―17世紀後半　館蔵　山崎家資料）

ヨーロッパに中国磁器がもたらされた際、人々は競ってこれらの品々を求めました。それまで彼らが使ってきた「やきもの」といえば厚く鈍重な陶器でしたので、薄手で軽く滑らかな地肌の中国磁器は、まさにこの世のものとは思われない絶品だったのでしょう。

したがって、17世紀中頃に中国磁器の代わりとしてヨーロッパへ渡った肥前磁器が、またたく間に広まり、金銀よりも高い価格で取引されたのも当然の結果といえます。そして、王侯貴族たちの間で大いにもてはやされた肥前磁器は、18世紀に入るとヨーロッパにおいて模倣品が作られたばかりでなく、「ロココ」と呼ばれた美術史上における支配的風潮の中にくみこまれ、定着していきます。ロココとは、優雅で繊細な装飾美術様式のことで、衣裳や美術家具だけでなく、実用品のあらゆる領域にまで浸透します。ロココ様式の中心地であるフランスでは、肥前磁器に金具を装飾することがはやります。また、ザクセンのアウグストⅠ世を筆頭に、王侯貴族たちは蒐集した肥前磁器を、宮殿や広間の壁から天井にいたるあらゆるところに飾りたてました。

やがて18世紀後半になると、装飾を否定し機能性を尊重した「新古典主義」と呼ばれる風潮に代わります。肥前磁器によってほどこされた室内装飾も、衰退しますが、今日まで残ったいくつかのものが、当時の面影を伝えてくれます。

大地に眠る歴史

大きなムラと米・田んぼ

卑弥呼が活躍した時代（約1700年前、弥生時代後期）の中野の様子は、どんなだったのでしょうか。この頃は、米づくりもはじまり、人々の生活はとても安定した時代と言えます。

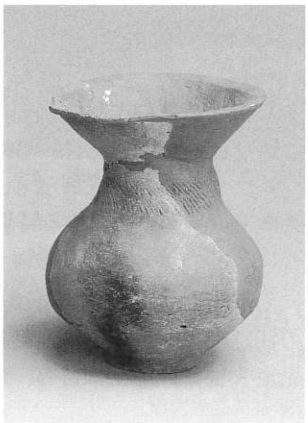
ところで、米をつくるのには、田んぼを開かなくてはなりません。田んぼは一人の力ではとてもできませんので、大勢の人の力が必要になります。

そのため、人々は集まって大きなムラをつくって生活するようになったのです。新井三丁目遺跡、平和の森公園北遺跡はこういった大きなムラの跡で、両遺跡合せて住居跡が250軒以上も発見されています。

特に新井三丁目遺跡の住居跡の床面からは、**写真**のような炭になった米つぶが発見されており、人々が米を食べていたことがわかります。このムラの田んぼは地形から考えて、今の沼袋駅の少し新宿寄りのあたりにあったと想像されています。

中野には、これらの遺跡の他に、片山遺跡（松が丘）や遠藤山遺跡（上高田）でもムラの跡が発見されていますので、当時の人々の住宅地としては、大変良い所であったのでしょう。

また、生活が安定してきたためでしょうか、遠い所との人の行き来も盛んになり、**写真**のような、静岡県の土器の特徴をもった壺や、長野県の土器の特徴をもったものなどが見られるようになります。



人々がどうして遠い所へ出掛けて行ったのか？　こればかりはいまだに謎です。

古文書つづり

中野最古の検地帳

古文書の代表的なものに検地帳があります。これは、土地と租税（年貢）の基本台帳です。村を単位に、村内の土地一筆ごとに、田、畠・屋敷などの地種、所在地（小字名）、面積（反別…たんべつ）土地の肥瘠による等級（地位…ちぐらい）とそれに基づいて査定された米の収穫量（石高…こくだか）、所持者（作人・名請人…なうけにん）を検地に基づき記載したものです。この内容を一筆で書くことから、土地の１区画を一筆（いっぴつ）という言い方ができました。

検地帳はまた水帳、縄打帳などともいわれます。これは、丈量のさいに使用される麻縄に渋を塗り、伸縮しないようにした「水縄」からきた測量をさす名称のように思えますが、「御図帳」のミズの混同転訛との説が、あるお代官様の書いた『地方凡例録』という本にみえます。

▲天正19年江古田村検地帳（堀野家文書）

ところで、中野の最古の検地帳は、写真の『天正十九年　武州多東郡江古田村　御縄打水帳 写』（５冊）で、1591年に作られたものの写です。同じ時期に本郷村でも検地が行われたと記録にはみえますが、検地帳は残っていません。

この検地帳は、その前年、豊臣秀吉から関東を与えられた徳川家康が、江古田村を、本能寺の変のとき家康を助けた忍びの者、「伊賀衆」の領地とするために行った検地で作られたものです。

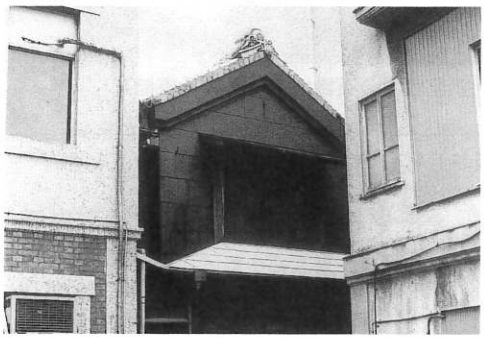
古い記載様式を持ち、天正期の同心領検地に関して旧多摩郡内で唯一現存する貴重な史料です。

中野往来

—明治は遠くなりにけり—

青梅街道に明治41年（1908）の棟札のある土蔵が残されています。鍋屋横丁の名を残した鍋屋の子孫が所有していた蔵と言い伝えられている由緒あるものです。

ところが、昨今の開発の波は、大正12年（1923）におきた関東大震災や、昭和20年（1945）の東京大空襲にも耐えたこの蔵をも飲み込もうとしています。また一つ明治が遠退いていきます。



◀建物の間にひっそりと……

中野昔話

水を飲みに来る鹿

話者：区内上高田　男　大正２年生

早稲田通りのところに、猿寺とか正見寺とかお寺がありますね、明治から大正にかけて、牛込あたりのお寺がだいぶあそこに移ってきた。それで、そのちょうど北が低くなってましてね、姥窪ってようなね。その辺の下が水源で、自然にしぼれた水が細い川になって、それがずっと神田川に注いでいた。それで、その辺がずっと低くなって。

安政生まれの、ひいおじいさんが、言ったのは、そこの下の細い川の流れのとこですけどね、そこにね、鹿が、よく何頭かで来てたって。鹿がよく水飲みに来たってことがある。

『中野の昔話・伝説・世間話』から

事業報告

入館状況

1990年7月～9月（76日間）　（人）

一般	行政視察	学校教育	合計
7,048	131	167	7,346

1989年10月～1990年9月　累計（294日間）（人）

一般	行政視察	学校教育	合計
36,223	698	4,001	40,922

各種事業経過

1990年7～9月

事業名	内容	期間
学芸員実習	館内実習および遠藤山遺跡現場実習（6大学11名）	8/1～8/14
夏休み学習相談室	小、中学校教員、文化財調査員および館員による相談室	8/21～8/26
古文書講座	Aコース（40名）／入門コース第1期	9/8～継続中
中野の今昔	青梅街道沿道の映像による記録資料作成	9/11～9/18

▲　真剣そのもの―学芸員実習―

寄贈資料一覧

1989年10月～90年3月
敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
掛け軸	1	坂本　彦
勲章　他	9	堀野　今吉
棒ばかり	1	和田　雛子
熊手	1	中村商店
熊手	1	小林　有子
熊手	各種	北野神社
木挽・毛挽　他	1式	山本　広
千代紙	1式	満石　まさ
人形・かんざし　他	13	猪田　尚宏
大礼記念読本	1	黒田　秀代
縄文土器　他	177	三村　文蔵
鞍・玩具　他	84	長谷川光男
鉛筆　他	46	松尾ちゑ子
着物　他	17	岩田　正雄
張り板	4	遠藤　初子
図書・顕微鏡　他	26	中村　善紀
桶　他	3	深野　秀夫
儀礼帽　他	6	大橋　秀雄

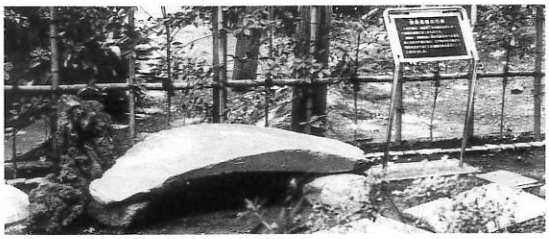
◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

NEWS 運営協議会発足 NEWS

7月31日、中野区立歴史民俗資料館運営協議会の委員に次の方々が委嘱されました。

（敬称略）

会長	石井　則孝	文化財保護審議会委員
	會田　満	小学校長会（仲町小校長）
	赤松　章見	学識者
	小俣　茂	文化財表示板設置協力者
	倉員　保海	地方史研究者
	中　進士	中学校長会（第二中校長）
	中島　恵子	文化財保護審議会委員
	堀野　新治	資料寄託者
	宮村　篤敬	文化財調査員



▲　鍋屋庭園の石橋（江藤春雄氏寄贈）

発行年月日　1990年10月1日
編集・発行　山崎記念 中野区立歴史民俗資料館
〒165 東京都中野区江古田4－3－4
☎ 03(319)9221　FAX 03(319)9119
（印刷物登録番号　2中教社社第8号）